



平成 29 年 11 月 8 日

各位

上場会社名            ボーソー油脂株式会社  
 代表者                代表取締役社長 齋藤 典幸  
 (コード番号        2608 東証第二部)  
 問合せ責任者        取締役執行役員管理本部長  
                           川崎 薫  
 (TEL                 047-433-5551)

### 業績予想の修正及び繰延税金資産の取崩しに関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間(平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)において、繰延税金資産の取崩しを行う見込みとなりましたので、お知らせいたします。

また、これに伴い、平成 29 年 5 月 12 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 業績予想の修正について

平成 30 年 3 月期第 2 四半期 (累計) 連結業績予想数値の修正 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	7,300	△40	△50	△40	△26 円 18 銭
今回修正予想 (B)	7,036	△200	△218	△397	△265 円 34 銭
増減額 (B - A)	△264	△160	△168	△357	
増減率 (%)	△3.6	—	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 29 年 3 月期第 2 四半期)	8,699	110	105	48	31 円 61 銭

平成 30 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	14,500	60	40	25	16 円 36 銭
今回修正予想 (B)	13,300	△360	△400	△590	△394 円 33 銭
増減額 (B - A)	△1,200	△420	△440	△615	
増減率 (%)	△8.3	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	16,956	126	99	1,861	1218 円 04 銭

平成 30 年 3 月期第 2 四半期（累計）個別業績予想数値の修正（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想（A）	7,000	20	10	5	3 円 27 銭
今回修正予想（B）	6,704	△112	△115	△273	△182 円 46 銭
増減額（B－A）	△296	△132	△125	△278	
増減率（％）	△4.2	—	—	—	
（ご参考）前期第 2 四半期実績 （平成 29 年 3 月期第 2 四半期）	8,338	150	162	113	73 円 00 銭

平成 30 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	13,800	150	130	80	52 円 36 銭
今回修正予想（B）	12,650	△225	△240	△395	△264 円 00 銭
増減額（B－A）	△1,150	△375	△370	△475	
増減率（％）	△8.3	—	—	—	
（ご参考）前期実績 （平成 29 年 3 月期）	16,211	189	206	147	96 円 73 銭

修正の理由

第 2 四半期連結累計期間

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前回発表を下回る見込みとなりました。

その主因は、ナタネ食油において、海外輸入原料価格が高止まりするなかで、需要停滞と競争激化により、製品価格の値上げが遅れたことに加え、事業採算性の抜本的見直しに向け、グループ会社全体で取り組んでいる構造改革（ナタネ食油の製造体制の縮小とコメ食油の製造体制の拡充等）の途上にあり、各工場の生産体制の再配置などによる稼働効率の低下と設備整備にかかる一時費用の発生が予想を上回ったことにあり、連結、個別ともに収支が悪化することとなりました。また、売上高は、第 2 四半期よりナタネ食油の製造体制の縮小により、ナタネ粕の販売を終了したことなどにより、下期売上高は減少する見込みとなりました。

通期

構造改革の生産体制の整備は、第 3 四半期から徐々に収束する予定であり、これに伴って効率改善が図られる見込みであるものの、その効果が業績に反映されるには、一定の時間を要し来期以降となることから、通期における営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回発表を下回る見込みとなりました。

これは、取り組んでおりますグループ会社全体の構造改革のなかで、子会社工場の工場移転に伴う設備整備を行っており、来年度稼働に向けて取り組んでおりますが、当第 2 四半期より工場稼働を縮小し、第 3 四半期より停止することにより、一時費用が下期が発生することが予測できることと、ナタネ食油の採算性の改善には、先行的な原料調達状況と販売活動状況により、今期への反映は限定的であると予測しております。また、売上高は、第 2 四半期からナタネ粕などの販売を終了したため、下期は減少する見込みとなりました。

## 2. 繰延税金資産の取崩し

過去の業績並びに当社を取巻く経営環境を踏まえた今後の業績見通しを総合的に勘案し、繰延税金資産の回収の可能性を慎重に検討した結果、連結及び個別決算において、繰延税金資産 1 億 53 百万円を取崩し、法人税等調整額に計上する見込みであります。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

※当社は、平成 29 年 10 月 1 日付けで普通株式 10 株につき 1 株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して 1 株当たり四半期（当期）純利益金額を算定しております。

以上